

淀川製鋼



Environment Report 2016

～持続可能な社会の実現に貢献する企業として～



ヨドコウ環境報告書2016

発行/平成28年10月 編集・発行/(株)淀川製鋼所 企画部 環境管理課
〒541-0054 大阪市中央区南本町4丁目1番1号 ☎(06)6245-1119 FAX(06)6282-9176
E-mail kankyokanri@yodoko.co.jp URL <http://www.yodoko.co.jp/>

ヨドコウ

自然環境と調和し 共生を目指して

地球的規模での環境問題が深刻になっている現在、地球を守る企業活動が求められています。

このような状況に応じて、1999年に企業活動の指針として「淀川製鋼所環境宣言」を作成し、以来全社を挙げ、地球の環境に配慮した企業活動に取り組んでいます。

淀川製鋼所環境宣言

当社は創業以来、鉄鋼メーカーとして各種製品を社会に供給し、人々の生活向上に貢献してまいりました。

一方、人々の豊かな生活への追求が、地球規模での自然破壊や環境汚染につながり、現在では、地球環境汚染の解決が世界的な課題となっております。

こうした顕在する地球環境問題に企業活動が密接に関わっていることを深く認識し、人類共通の財産である地球を、健全な状態で次世代へ引き継ぐことは、我々企業人に課せられた責務であると考えます。

以上の状況にかんがみ、私たちは、自然と調和し、共生する企業活動を行なっていくことを、ここに宣言いたします。



Environment Report 2016

～持続可能な社会の実現に 貢献する企業として～



環境基本理念

- 地球環境の保全に貢献します。
- 自然環境調和型の企業活動を行います。

環境行動指針

1. 環境保全意識の啓蒙

社員及び協力会社社員に環境教育を実施し、環境保全を認識して行動する人づくりを推進します。

2. 事業活動における環境への配慮

■全ての事業活動において、公害防止、省資源、省エネルギー、物流の合理化、廃棄物の削減・リサイクル等を行い、環境への負荷の低減に努めます。

■製品開発に際しては、耐久性の向上に努め、再資源材料及びリサイクルし易い材料採用など、廃棄による環境への負荷の低減に努めます。

3. 社内組織の整備

以上を推進するため、本社及び各事業所の環境管理組織を強化し、環境保全活動に取り組みます。

CONTENTS

トップコミットメント	03	循環型社会の形成	13
特集:ヨドコウの環境対応商品	05	廃棄物・有価物のリサイクルの促進	
環境活動の目的・目標	07	水の使用量低減・循環使用の促進	
環境マネジメントシステム	08	循環負荷物質の低減	14
マテリアルバランス	09	PRTR対象物質の排出量・移動量の低減	
環境会計	10	揮発性有機化合物(VOC)の低減	
地球温暖化対策	11	PCB含有対象機器への対応	
生産部門での取り組み		排水の水質管理	
物流部門での取り組み			
オフィス部門での取り組み			

環境教育	15
地域社会と共に	16
商品を通じた社会貢献	17
[参考資料]ヨドコウグループ概要	19

報告対象組織

本報告は、株式会社淀川製鋼所単体を中心としています。

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年度版)」
(環境省ホームページ)
<http://www.env.go.jp/policy/report/h24-01/>

対象期間

2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)



持続可能な社会の実現に貢献する企業として、取り組みを強化・推進。

「環境宣言」に基づいた企業活動

当社は、1999年に掲げた『環境宣言』に基づき、「自然環境と調和し共生できる企業活動」に取り組んでいます。環境負荷の低減については、「地球温暖化対策」「循環型社会の形成」「環境負荷物質の低減」「環境配慮」の4つの分野に分けて、それぞれ対策を講じています。

銅板・建材・エクステリア・ロール・グレーティングの各事業においては、より一層環境に配慮した商品の開発やサービスの提供に注力するとともに、生産過程での省エネルギー対策や環境負荷低減への取り組みを強化して参りました。

製造部門においては、省エネルギー機器の導入に積極的に取り組んでおり、昨年度は省エネ及び大気汚染の原因となるVOCの除去率アップを目的に、市川工場と台湾の子会社であるSYSCO社のカラーラインの脱臭装置を更新。本年度も大阪工場のカラーラインの同設備を更新する予定です。

物流部門においては、陸上輸送の増加によりモーダルシフト化率のアップには至らなかったものの、コンテナ輸送の積極的導入によりCO₂排出量は若干減少いたしました。この取り組みについては引き続き実施して参ります。

オフィス部門においては、エレベーター等のビル設備改修や照明のLED化、社用車のエコカーへの切り替えなど、より一層の省エネ活動に努めています。

今後も継続的に社員の意識を高めながら環境負荷低減のための様々な施策を実施して参ります。

地球環境保全の推進と環境意識のレベルアップ

各生産プロセスでは、より高効率な機器を導入し、工場内の照明設備についても電力消費の少ないLED照明に変更するなど細かな対策を積み重ねることで、地球環境保全の推進へと繋げています。

また、再生可能エネルギーの普及促進に対応し、太陽光発電システムの設置を進め、泉大津工場、大阪工場、福井事業所及びヨドコウ興産姫路工場でメガソーラーが稼働しており、総発電量は一般家庭約1,200戸分になります。さらに昨年度は、台湾のSYSCO社にもソーラー設備を設置いたしました。

当社では、既に国内の全ての銅板工場でISO14001を取得しており、海外連結子会社である台湾のSYSCO社、タイのPPT社でもすでに取得しており、昨年度は中国のYSS社も取得いたしました。地球温暖化問題への取り組みとして、グループ全体でエネルギー消費量の抑制とCO₂排出量の削減を推進しています。

その他の事業所についても、ISO14001及びISO14001規格を参考とした環境マネジメントシステムの取得を目指し、社員一人ひとりの環境保全や省エネに対する意識のレベルアップを図っています。

商品を通じた環境負荷低減

商品面では、主力の一つである表面処理銅板の中でも、環境負荷物質である六価クロムを含まない「クロメート

フリー銅板」の開発と普及に注力しています。この商品は環境負荷物質の制限にいち早く取り組んだ家電業界向けに開発した商品であり、現在では建築向けの商品展開も行い、外装材用として「エコグリーン」シリーズとして発売しています。

また、一昨年に発売した、ヨド耐火パネル「グランウォール」が好評なため、本年度中に製造設備を増設し、生産能力の大幅な増強を図る予定です。この商品はロックウールを芯材に使用した、耐火性、断熱性に優れた環境対応商品です。耐久性・施工性・意匠性にも優れている点が高く評価され、工場や倉庫、事務所などの外壁としてはもちろん、大型商業施設の外壁材としても採用されています。これらの商品につきましては、商品レパートリーの拡大と共に、環境対応商品の有用性をお客様にご理解いただくことが大切だと考えています。

当社はクロメートフリー銅板のパイオニアとして、今後も社会の要請に応え、継続的な商品開発・市場の開拓と成長を進め、環境負荷低減へより一層の貢献をいたします。

持続可能な発展に貢献できる企業を目指して

当社は、1935年1月の創立以来、80年以上にわたって培ってきた技術・ノウハウにより、社会にさまざまな商品を送り出し、サービスを展開して参りました。

今後も、社会や地球環境の問題解決に目を向け、持てる技術力を発揮することにより、お客様から信頼され、社会の持続可能な発展に貢献できる企業であり続けることを使命とし、『環境宣言』に基づいた企業活動に取り組んで参ります。



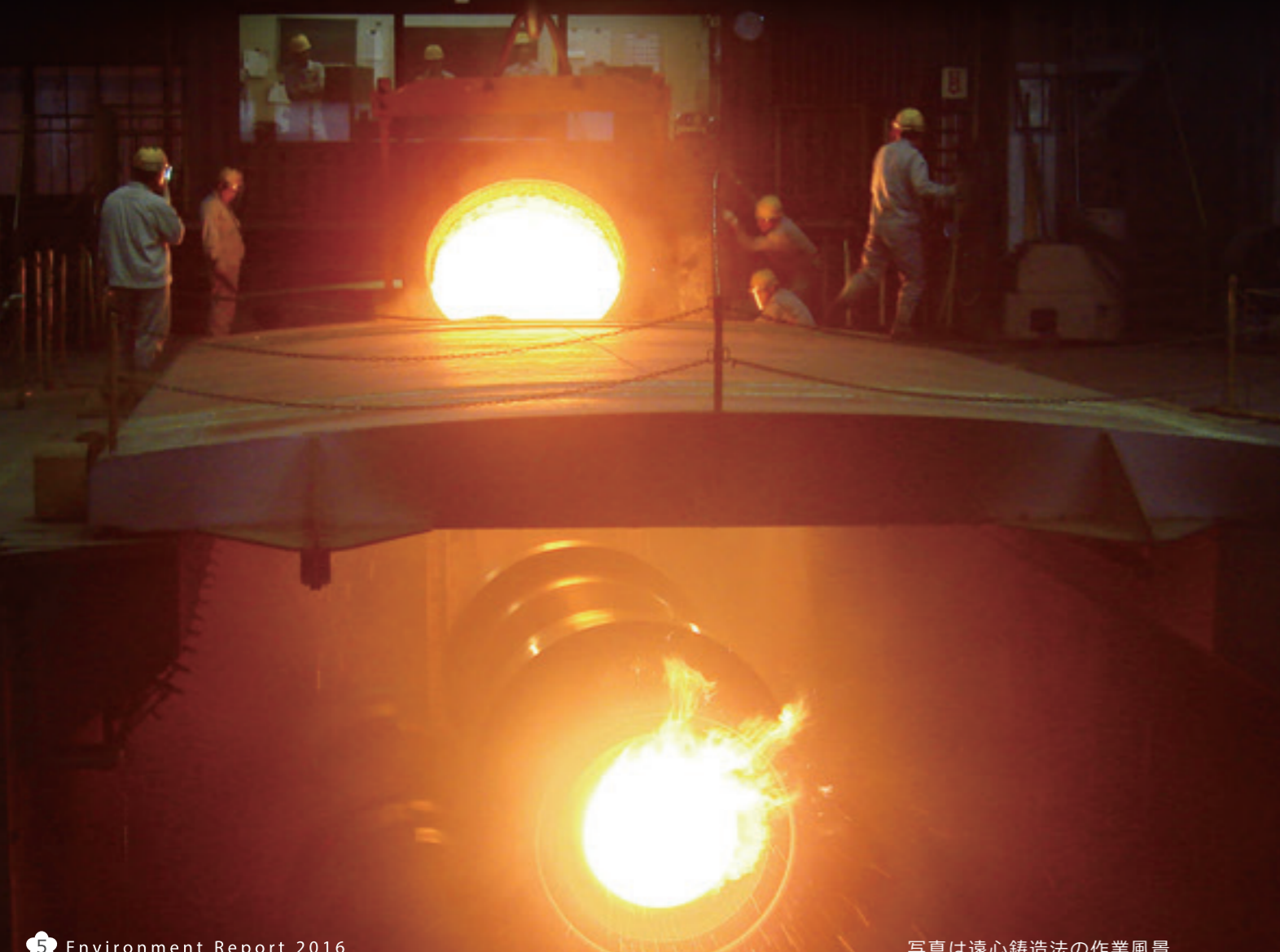
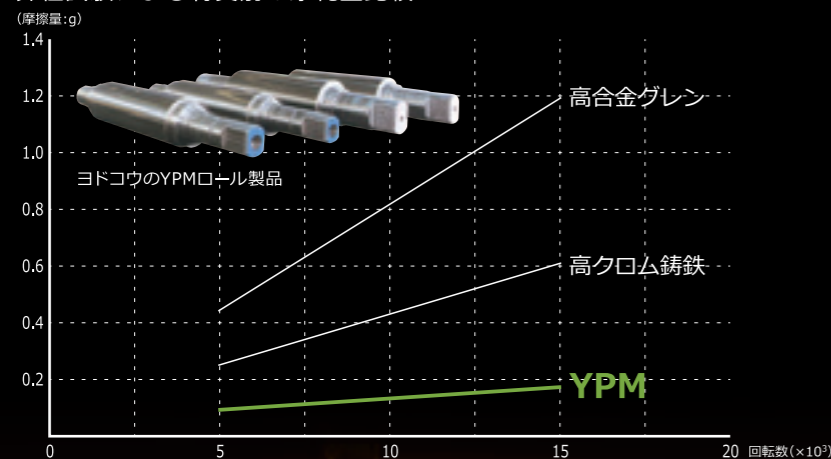
代表取締役社長

河本 隆明

特集

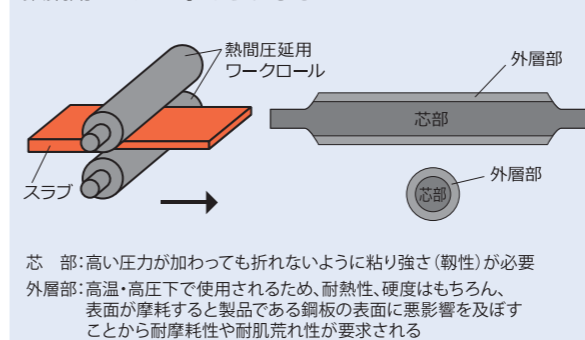
長寿命で環境にも人にも優しい ヨドコウの鉄鋼用YPMロール

弊社試験による材質別の摩耗量比較



当社では1948年のロール製造開始以来、鉄鋼・製紙・ゴム製造用など様々なロールを製造販売しています。中でも、鉄鋼の熱間圧延に使用されるワークロールは、1000℃以上に熱せられた厚さ200~300mmのスラブと呼ばれる鉄の塊を約2000 tもの荷重をかけながら、目的の厚さに引き延ばす工程で使用されるロールで、過酷な条件で使用されます。

鉄鋼用ロールに求められるもの



ロールは、芯部と外層部で構成され、芯部は高圧にも折れない粘り強さが、外層部は高温や摩耗に耐えられる必要があり、特に外層部は製品の品質を保つため耐久性の高い材料が必要となります。

そこで1990年代に開発されたのがハイスロールです。ハイスとはHigh Speed Steel(高速度鋼)の略で元来は鋼を切削する工具の刃に使用されていた工具鋼で、熱や圧力や衝撃に強く、硬度・靱性・耐熱性などに優れた性能を持っています。このハイスをロールの表面に使用することで、耐久性を向上させたのがハイスロールです。

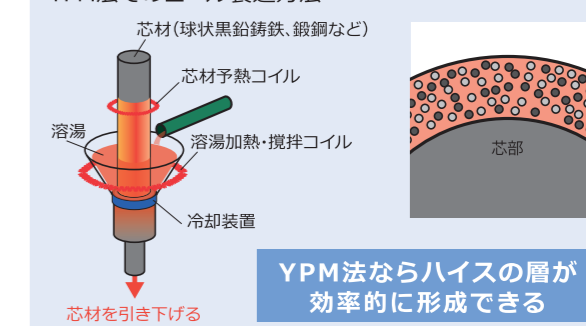
圧延ロールの代表的な製造法としては、外層部を遠心鋳造で製造する遠心鋳造法と芯部を円筒形の型枠の中心に設置し、溶湯を芯部との間に注入しながら下部へ

引き抜く連続鋳掛法があります。ハイスロールは、遠心鋳造法で製造すると、合金であるハイスが遠心力により合金成分が偏ってしまい十分な性能を発揮することができません。そこで当社では合金成分が均一になる連続鋳掛法に独自の技術を注入したYPM(Yodogawa Padding process with Molten metal)法を開発しました。

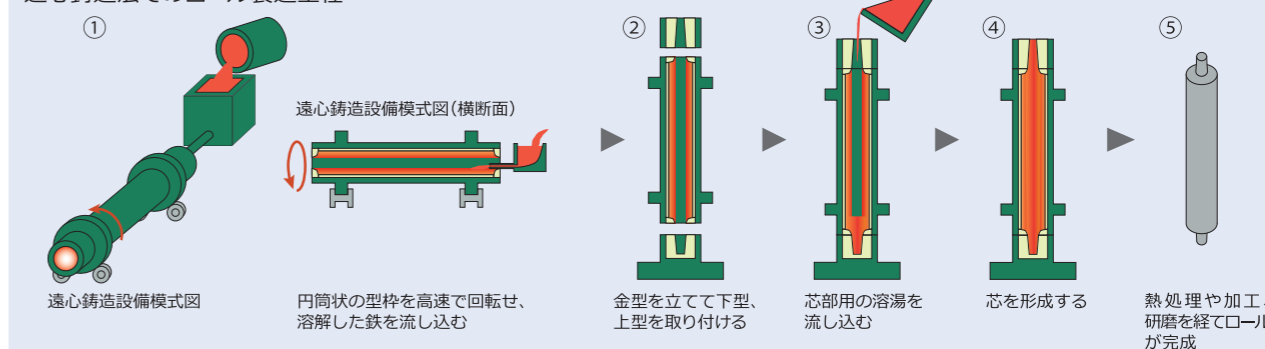
この結果、他の材料に比べて優れた耐摩耗性を有するハイスロールの製造が可能となりました。

優れた耐久性によりロール寿命が長くなったことで、交換するための予備ロールを数多く備える必要がなくなり費用が抑えられるだけでなく、ロール交換後の表面を研磨し再び使えるようにするメンテナンス回数を減らすなど経済的なメリットがあります。さらに安全性にリスクのあるロール交換回数の減少を期待出来るため、作業者にも優しいロールといえます。

YPM法でのロール製造方法



遠心鋳造法でのロール製造工程



環境活動の目的・目標

評価：◎達成、○70%の達成、△未達成

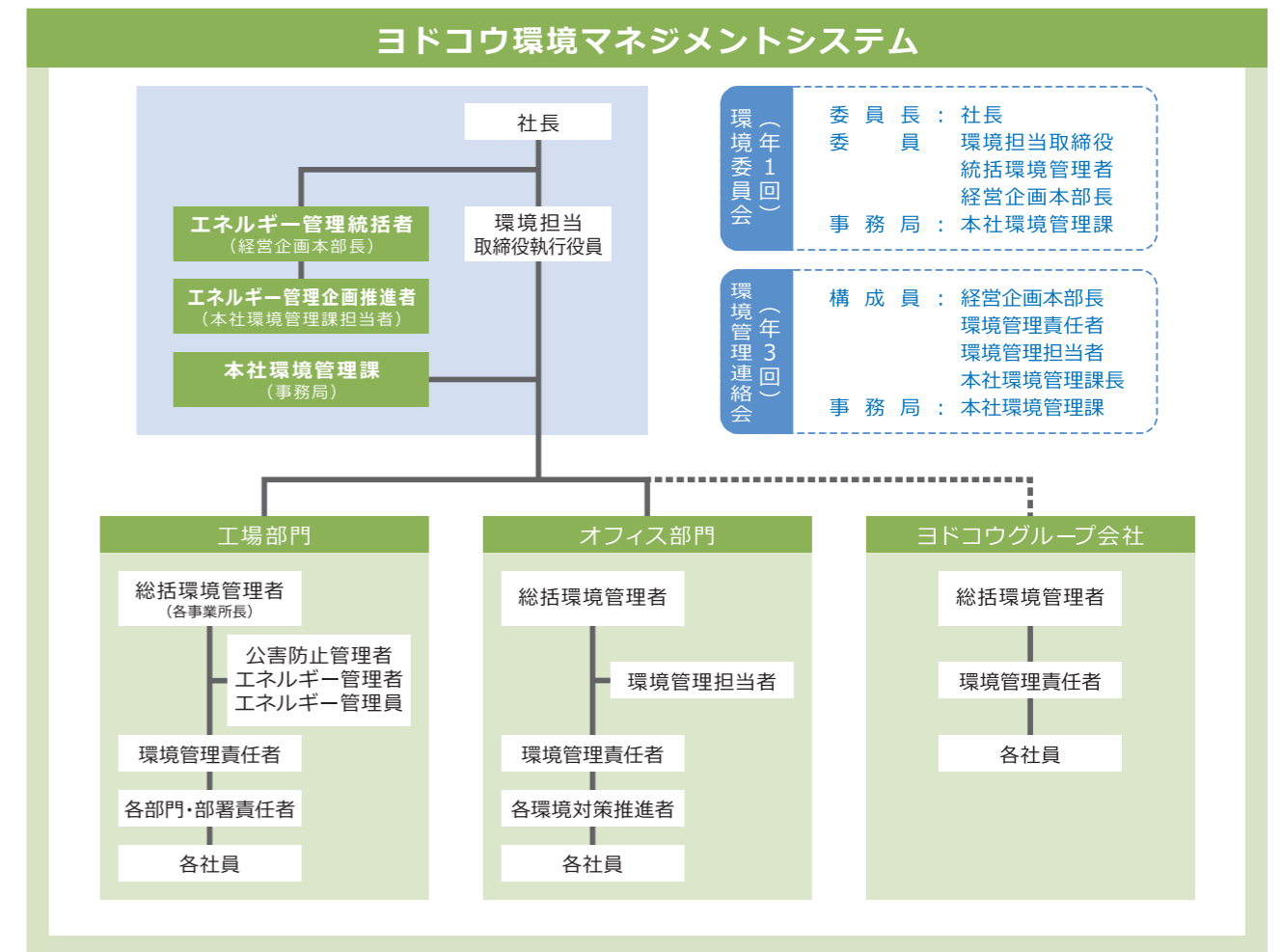
取組内容	2015年度目標	2015年度活動内容	評価	2016年度目標	ページ
地球温暖化防止	生産部門でのCO ₂ 削減	・地球温暖化防止対策に継続して取り組み、年間800t-CO ₂ (前年度比-0.5%)の削減を目指す(日本鉄鋼連盟低炭素社会実行計画※1に参画) ・工場ボイラー、受変電設備やカラーライン脱臭装置の更新等、高効率機器を導入 ・製造ラインヤード、倉庫ヤード、付帯設備などへのLED照明化を拡大 ・ポンプ、ファンなど各設備の運転条件最適化を実施 ・昨年度比では約4000t-CO ₂ (2.4%)削減	◎	・地球温暖化防止対策に継続して取り組み、年間800t-CO ₂ (前年度比-0.5%)の削減を目指す(日本鉄鋼連盟の低炭素社会実行計画に参画)	11
	輸送でのCO ₂ 削減	・特定商品のコンテナ輸送増加により『エコレールマーク』を取得 ・モーダルシフト化率は、海上輸送の減少により前年度比3.6ポイント悪化。CO ₂ 排出量は全体の配送距離が減ったことにより5%減少	○	・モーダルシフト化率をアップ、CO ₂ 排出量の削減	12
	オフィス部門でのCO ₂ 削減	・夏季の消費電力量を前年度比1%削減 ・空調設定温度28℃の徹底 ・クールビズの推進	◎	・夏季の消費電力量を前年度比1%削減 ・空調設定温度28℃の徹底 ・クールビズの推進	
循環型社会の形成	省資源の推進	・分別方法や収集先の見直しによるリサイクル率アップ ・原材料、副原料、資材の徹底的な有効活用 ・各設備で発生した廃油を再生業者へ委託し再資源化 ・梱包材の使用法、廃プラスチック等、廃棄物の削減に引き続き取り組む ・廃棄物発生量は昨年度比13%低減	△	・分別方法や収集先の見直しによるリサイクル率アップ ・原材料、副原料、資材の徹底的な有効活用 ・使用方法等の見直しによる廃棄物の削減に引き続き取り組む	13
	VOC排出量の削減	・カラーラインの脱臭装置を蓄熱式へ更新することによりVOC排出量の低減 ・市川工場No.4カラーラインの脱臭装置を蓄熱式へ更新することにより、VOC排出量の削減を図った。 ・基準年に対し、削減率は13.6%を達成	◎	・大阪工場No.5カラーラインの脱臭装置を蓄熱式へ更新することによりVOC排出量を低減	14
	有害化学物質の全廃	・クロメートフリー商品の開発 ・生産品目割合の関係で、PRTR対象物質の取扱量は、前年度比9.4%増加	△	有害化学物質を含まない材料への切り替え等による低減(継続目標)	15
環境負荷物質の低減	化学物質の管理強化	・PCB含有機器の処分 ・生産ラインからの有害化学物質漏洩予防対策の徹底 ・環境関連情報・法規の共有化	◎	・定期的な点検の継続的な実施 ・微量PCBの適正な保管と速やかな処分の実施。関連情報の共有化 ・環境関連情報・法規の共有化	
	製品への有害化学物質非含有保証の対応	・法規に即した顧客要求への対応継続(SDS書式の変更)	△	・法規に即した顧客要求への対応継続(SDS書式の変更)	14
	地域社会への貢献	・地域社会とのコミュニケーションの向上(継続目標)	◎	・地域社会とのコミュニケーションの向上(継続目標)	16
環境配慮	環境配慮製品及び技術の開発による社会貢献	・クロメートフリー商品の開発と拡販により六価クロムの取扱量の低減を目指す	○	・クロメートフリー商品開発と拡販を行うことにより、六価クロムの取扱量の低減を目指す	17
	環境活動の推進とリスク管理の徹底	・環境関連資格者の養成 ・環境保全活動の情報共有 ・環境リスク管理の強化	△	・環境関連資格者の養成 ・環境保全活動の情報共有 ・環境リスク管理の強化	8・15

※1 日本鉄鋼連盟低炭素社会実行計画：2020年にBAU※2比で500万トンのCO₂削減する計画
 ※2 BAU：Business as Usualの略。特段の省エネ・CO₂削減対策を実施しなかった場合のCO₂排出量

環境マネジメントシステム

環境基本理念の下、地球環境問題に対応し、環境負荷の低減を行う取り組みをすすめています。環境保全に対する規制や要請に対応しつつ、より積極的に取り組むため「ヨドコウ環境マネジメントシステム」を構築しています。

社長を委員長とし、環境担当取締役、事業部門の担当役員からなる「環境委員会」を設置し、全社的な基本事項を決定します。また各事業所の環境管理責任者及び環境管理担当者による「環境管理連絡会」を定期的に開催することにより、各部門間の調整や全社方針等必要事項の周知徹底を図っています。



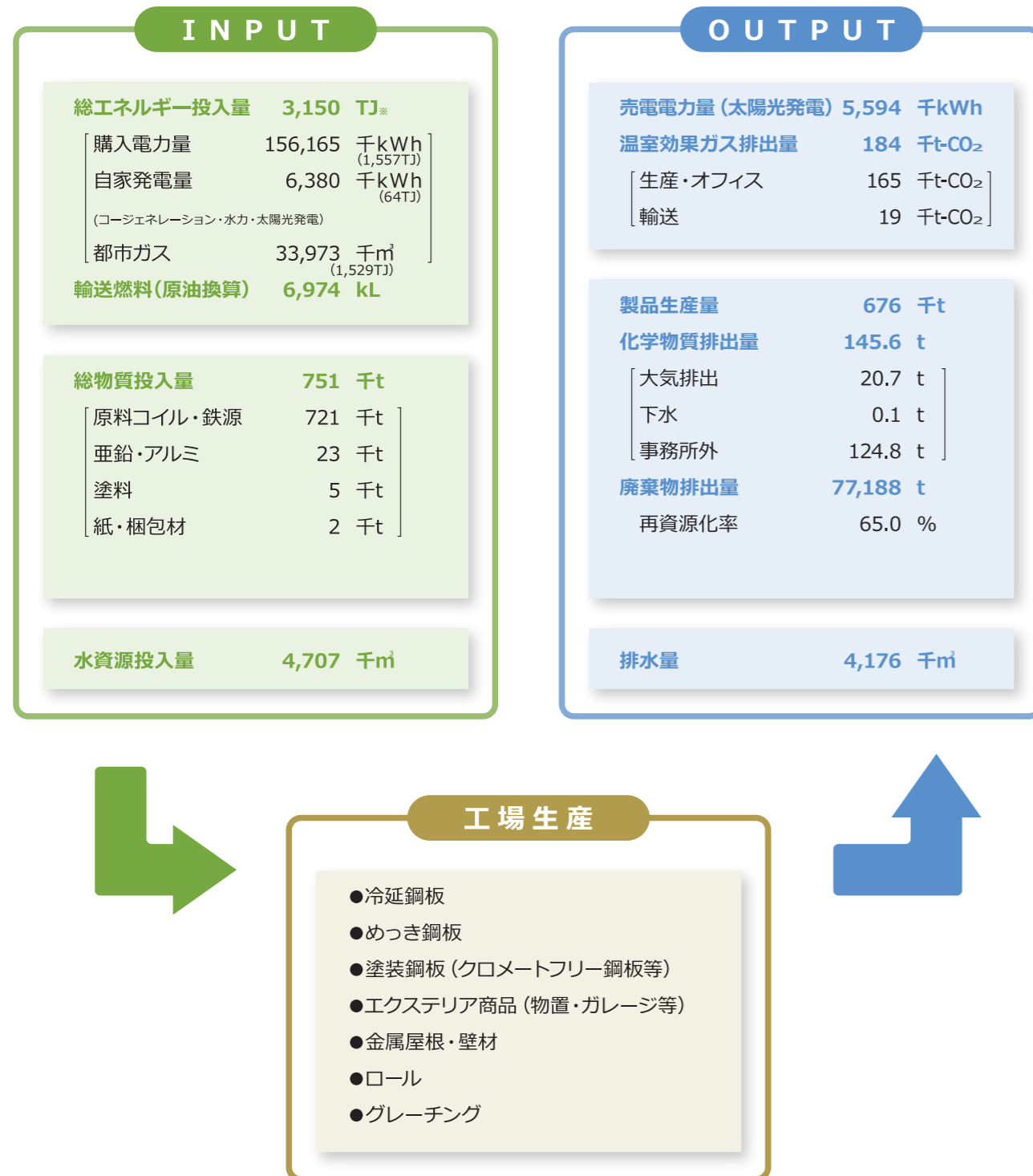
ISO14001認証取得事業所

生産部門の鋼板3工場では、環境負荷低減のための環境保全活動を継続的に行い、その活動を管理し、向上させるためにISO14001の認証を取得しています。

事業所	登録年月	更新年月	登録範囲	登録番号	審査登録機関
市川工場	2000年6月	2015年6月	冷間圧延、表面処理の鋼板及び鋼帯の製造に係わる事業活動	E143	JICQA
大阪工場	2000年12月	2015年12月	表面処理鋼板、鉄鉄ロールの製造に係わる事業活動	E193	
呉工場	2000年12月	2014年10月	冷間圧延鋼帯及び表面処理鋼帯の製造に係わる事業活動	E203	

マテリアルバランス

当社は、鋼板関連、ロール、グレーチングの3事業を中心に展開しており、それぞれの製造過程では、水の循環利用・廃棄物などの分別やリサイクル利用を進めると共に太陽光発電、水力発電など再生可能エネルギーの導入、コージェネレーションシステムの導入など、省エネルギーやCO₂排出量の削減が期待できる諸施策を実施しています。



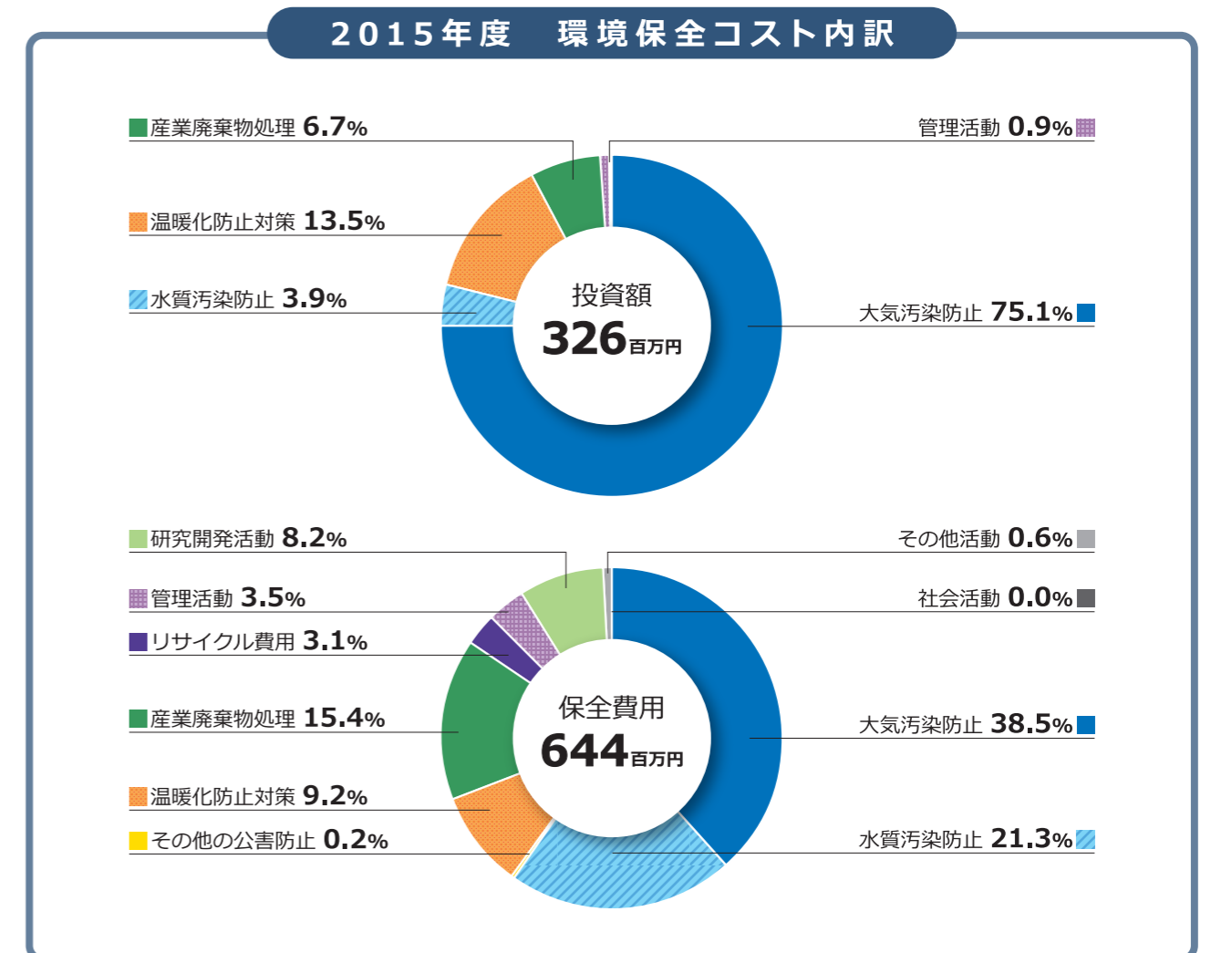
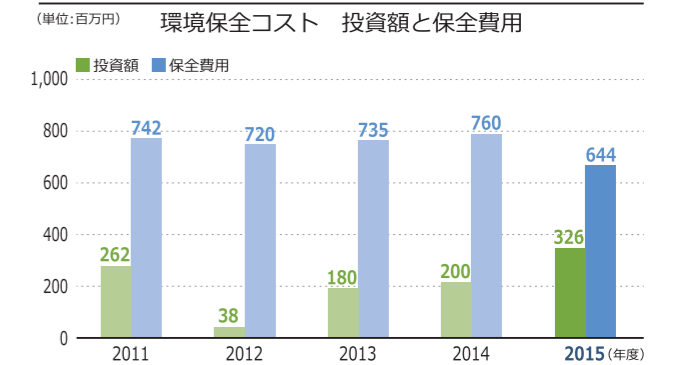
*TJ(テラ・ジュール):1兆ジュール(=10の12乗ジュール)

環境会計

事業活動を行う上で、環境を損なうことがないよう環境負荷発生の防止や抑制等、環境保全の取り組みを効率的に行うための指標として、環境保全コストを把握しています。

2015年度の環境保全コストは、カラーライン蓄熱式脱臭炉やボイラーの更新等の設備投資に、326百万円を支出しました。

また保全費用は、644百万円となり、そのうち大気汚染防止対策39%、水質汚濁防止対策21%、産業廃棄物処理に15%等、主に公害防止や資源循環のための支出となりました。



地球温暖化対策

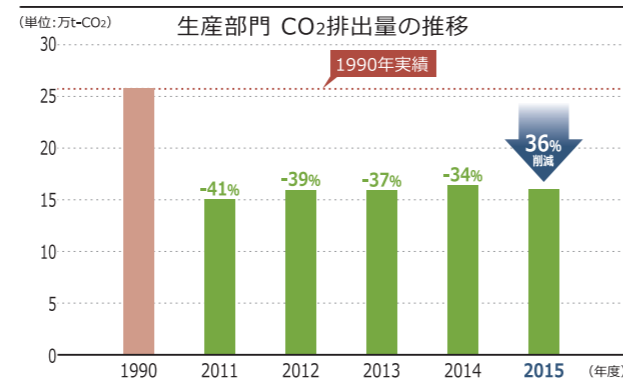
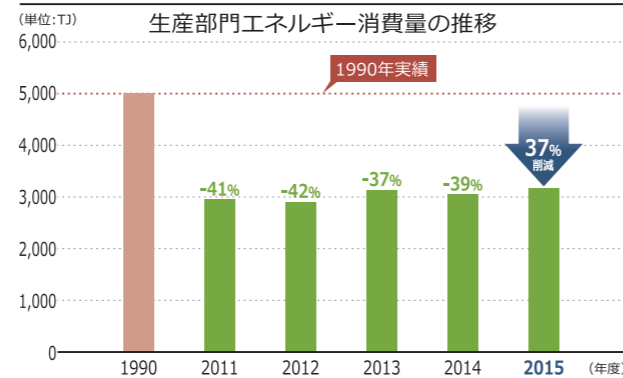
地球温暖化対策や電力需給対策として、各事業所でエネルギー使用の合理化や、設備・装置の効率化など継続的な省エネルギーへの取り組みを行っています。

■ 生産部門での取り組み

2015年度は、市川工場No.4カラーライン脱臭装置、呉工場第2工場ボイラー更新等の設備更新を行い、また既存の生産設備の効率化改造や運用改善、各工場ヤード内の製造ラインや倉庫ヤード、付帯設備照明のLED化など、エネルギー消費量削減対策を行いました。

対前年度比では、エネルギー消費量、CO₂排出量ともほぼ横ばいの結果となりました。設備投資に対する効果が今後現れるため、来年度以降に期待が持てます。

また基準年である1990年度との比較では、エネルギー消費量は37%削減、CO₂排出量は36%削減となりました。



呉工場 第2工場ボイラー更新
高効率ボイラーの導入により、CO₂の削減に貢献しています



市川工場 No.4カラーライン脱臭装置
高い排ガス処理能力と熱効率で、環境保全に貢献しています

■ 物流部門での取り組み

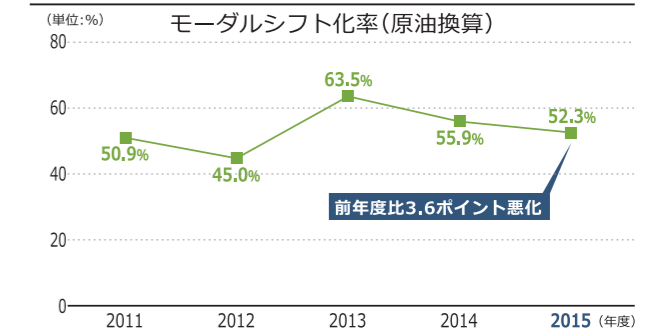
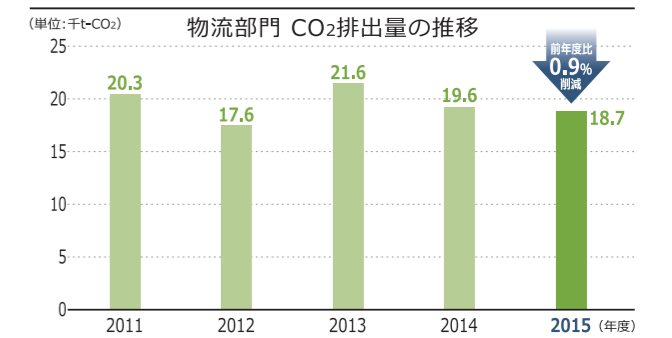
当社の物流は、輸送貨物・輸送先に合わせて、トラック・トレーラーによる陸上輸送、コンテナによる鉄道輸送、内航船・フェリーによる海上輸送を組合せています。

陸上輸送では積載率の向上や環境性能の高い車種へのシフトなどの対策を行っておりますが、よりCO₂排出量を抑えることができる鉄道輸送や海上輸送への継続的なモーダルシフトを進めております。

2015年度も、継続目標である「モーダルシフト化率[※]アップ」に取り組み、一部の商品については成果が出ましたが、全体としては陸上輸送の比率が増加し、前年度比3.6ポイント悪化となりました。

CO₂排出量は、短距離の陸上輸送の増加等による輸送キロ数の減少により、前年度比0.9%の減少となりました。

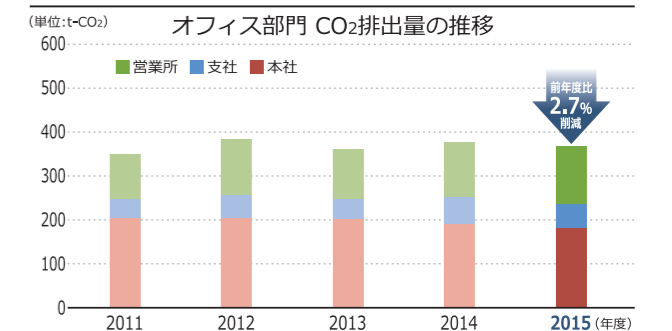
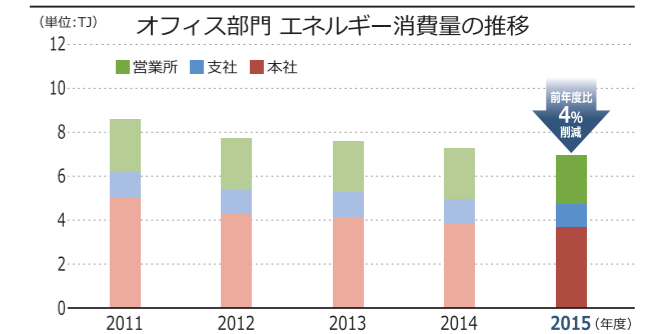
※モーダルシフト化率(原油換算)
計算式: (鉄道輸送 + 海上輸送) / (鉄道輸送 + 海上輸送 + トラック輸送)



■ オフィス部門での取り組み

オフィス部門では、5月～10月の期間に空調温度設定28℃の徹底やクールビズの実施を、さらに7月～9月の期間は、週2日のノー残業デーの設定などの取り組みを行い、冬季も空調温度設定20℃の徹底やウォームビズの実施などの活動を行っています。活動の結果は、情報を共有する等、活動の徹底と意識の定着に努めています。

2015年度のオフィス部門(本社・支社・営業所)はビルのエレベーター改修等を実施した結果、前年度比でエネルギー消費量は4%、CO₂排出量は2.7%の削減となりました。



循環型社会の形成

■ 廃棄物・有価物のリサイクルの促進

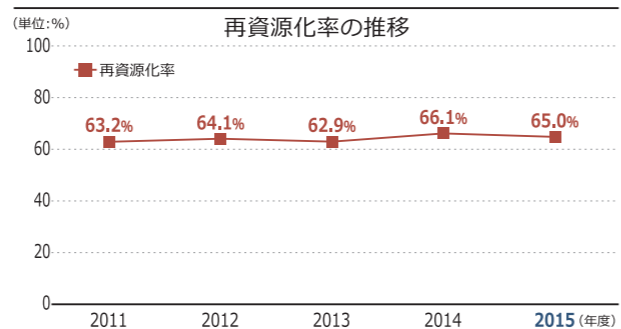
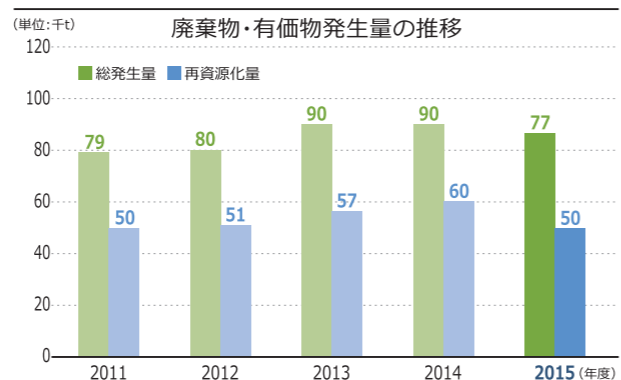
生産活動において発生する廃棄物及び有価物には、汚泥、廃油、鉱さい、鉄くずなどがあります。

当社では、それらの再資源化に取り組んでおり、汚泥はセメント原料や含有金属の抽出などに、廃油は再生油や補助燃料に、鉱さいは路盤材にそれぞれ利用されます。

また廃棄物を委託処分する場合は、処分業者を訪問し、処分の現地確認を行う等、確実な廃棄物処分を心掛けています。

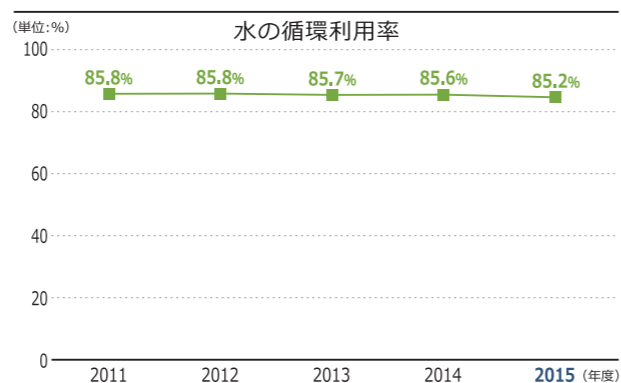
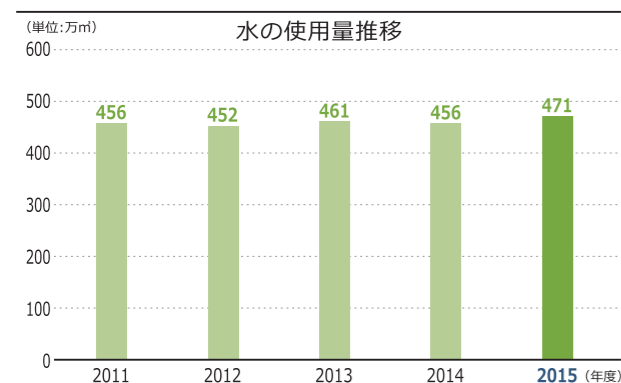
2015年度の廃棄物・有価物の総発生量は77ktとなり、対前年度比約13%の減少となりました。再資源化については、再資源化可能な処分業者の選定などの取り組みを推進しましたが、再資源化率は対前年度比1.1ポイント減少にとどまりました。

各事業所では、廃棄物の処理方法の改善や徹底した分別収集を行うことにより、廃棄物の減量と再資源化の推進に取り組んでいます。



■ 水の使用量低減・循環使用の推進

水の使用量低減に向け、工場内設備の冷却水の循環利用に取り組んでいます。



環境負荷物質の低減

■ PRTR法対象物質の排出量・移動量の低減

当社では、PRTR法※1及び条例に基づき、化学物質の適正な保管や管理を行い、その排出量※2及び移動量※3を低減させる活動に取り組んでおり、その結果を各事業所が所属する自治体に報告しています。

2015年度は、化学物質を多く取り扱うカラー鋼板製品の生産量や品種構成等の変化により、PRTR法対象物質の取扱量は前年度比9.4%増加しました。排出量はほぼ横ばい、移動量は12.9%減少となりました。

また、製品含有物質関連法規制に対応し、化学物質管理に関する社内規定を整備し、SDS※4や不使用保証書等の発行によりお客様への正確な情報提供を行っています。RoHS指令※5やREACH規則※6等の海外の法規制に関しても、お客様の要求に対応しております。

2015年度 PRTR法に基づく届出排出量及び移動量 (単位:トン/年)

政令番号	物質名	排出量				移動量	
		大気	公共用水	土壌	自所内埋立	下水道	事業所外
53	1,1,1-トリフルオロエタン	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	28.7
80	トリレン	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	59.3
83	クマリン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
87	加臭剤及び3価加臭剤化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
88	6価加臭剤化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.03	0.4
132	コハルボン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
277	トリフルオロエタン	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
296	1,2,4-トリフルオロエタン	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7
297	1,3,5-トリフルオロエタン	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3
300	トリレン	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	19.0
302	ナフタレン	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4
305	鉛化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3
308	ニッケル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.03	0.0
309	ニッケル化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
321	パラジウム化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
411	ホルムアルデヒド	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2
412	マカロン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
453	トリブレン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
総計		20.7	0.0	0.0	0.0	0.06	124.8

- ※1 PRTR法 : (Pollutant Release and Transfer Registerの略)「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」日本では1999年に法制化
- ※2 排出量 : 事業所から排出された量
- ※3 移動量 : 事業活動に伴って排出される産業廃棄物を処理業者に委託して場外へ移動する量、及び下水道に排出する量
- ※4 SDS : (Safety Data Sheetの略)安全データシート。化学物質や化学物質が含まれる原材料などを安全に取り扱うために必要な情報を記載
- ※5 RoHS指令 : (Restriction of Hazardous Substancesの略)電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令
- ※6 REACH規則 : (Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicalsの略)人の健康や環境の保護のために化学物質とその使用を管理する欧州議会及び欧州理事会規則

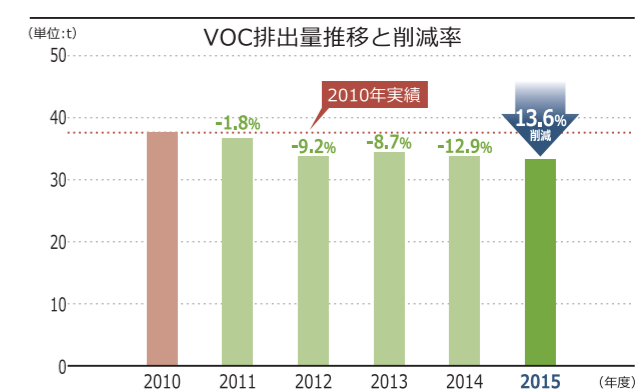
■ 揮発性有機化合物 (VOC※1) の削減

生産活動における揮発性有機化合物 (VOC) についても排出濃度を定期的に測定し、基準値以下であることを確認しています。

当社では、日本鉄鋼連盟の自主行動計画に参画しており、その行動目標である「2010年度の排出状況から悪化させない」ことを自社の目標とし、VOC排出量削減に取り組んでおります。

2015年度の排出量は、前年度比0.7%削減となり、2010年度比では13.6%の削減となっております。削減した要因としては、市川工場No.4カラーラインの脱臭装置の更新や、生産における商品構成の変化があげられます。

※1 VOC : 揮発性有機化合物 (Volatile Organic Compounds) 塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤、ガソリン、シンナーなどに含まれるトルエン、キシレン、酢酸エチルなどが代表的な物質



環境負荷物質の低減

■ PCB含有対象機器への対応

PCB含有が疑われる使用済みトランスやコンデンサー等の電気機器について含有調査を行い、含有が確定したものに關しては、法令に基づき、自治体への届出と適切な保管管理を行っています。

2015年度は各事業所で処分を実施し、微量PCBを含有した絶縁油や微量PCBを含む絶縁油が付着した使用済みコンデンサーやトランスを約16t処分いたしました。

■ 排水の水質管理

各事業所の廃液処理設備では、生産設備から発生した廃水を中和、凝集沈殿、濾過等で処理浄化し、その後濾過等で浄化し、公共用水域に排出しています。

排水の水質監視については、社内と外部の検査機関による測定を定期的に行い、また水質総量規制※1の対象事業所については、連続測定装置を設置し、排出される対象物質の総量を監視しています。その測定結果は法に従い、各自治体に報告しています。またそれとは別に、pH計や油分検知器を独自に設置し、環境事故を発生させないよう、継続的に監視しています。



呉工場 表面処理工場廃液処理設備



市川工場 総合廃液処理設備

※1 水質総量規制：総量規制基準が適用されている指定地域内(瀬戸内海、東京湾、伊勢湾)へ排水を排出する者は、規制対象となる指定項目(化学的酸素要求量(COD)、窒素、りん)について排水の汚濁負荷量を測定し、総量規制基準を遵守しなければならない
(水質汚濁防止法第12条の2、第14条第2項)

環境教育

当社は、環境経営を継続的に行うため、環境保全の実務に取り組む人材を育成するとともに、社員の環境意識の向上を図っています。社会をとりまく環境問題の歴史や、それに伴う取り組みの変化を説明し、企業活動を行う上での環境マネジメントシステムの必要性や環境方針・取り組み等、環境への理解を深める活動を行っています。



地域社会と共に

■ 各事業所の取り組み

■ 呉工場



呉工場周辺の街路や海沿いの公園など、春と秋の2回清掃を行いました。



■ 大阪工場



近隣遊歩道の清掃を実施しました。

■ 市川工場



市川港開発協議会主催の清掃活動に年2回参加し、市川工場周辺の道路や堤防などの清掃を実施しました。

■ 本社



『大阪マラソン』とタイアップした大阪市主催の「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」に参加し、美しいまちづくりのため、本社ビル周辺の清掃活動を実施しました。(2015年10月)



■ SAKURA+PROJECT (サクラプラス・プロジェクト) への協賛

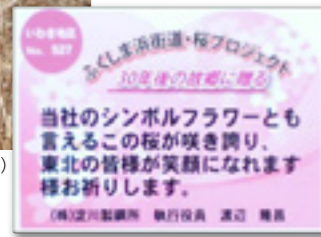


SAKURA+PROJECTとは、日本人の好きな花、そして見る人に元気を与えてくれる“桜”を、東北の被災地に植樹し、多くの人を惹きつける新たな名所を創ることで、震災からの復興を中長期的に後押しするプロジェクトです。

当社は、2012年3月よりヨド物置エスモ、エルモ全機種の上の一部を協賛・寄付しており、今後も継続的に植樹を行ってまいります。



2015年3月に植樹した桜(福島県いわき地区)



2012年に植樹した桜(岩手県大槌町)

商品を通じた社会貢献

■ クロメートフリー鋼板 エコグリーンシリーズ

亜鉛めっき鋼板・カラー鋼板・ガルバリウム鋼板で、六価クロムを含まず耐久性を備えたクロメートフリー鋼板「エコグリーン」シリーズを開発してきました。外装用カラー鋼板では、業界初のクロメートフリー化を実現しております。お客様の環境負荷物質に対するニーズにいち早く対応した商品を通して、地球の環境保全に貢献してまいります。



■ グランウォール・ヨドファイナルパネル・ヨドファイナルーフ

事務所、倉庫、工場などの壁材、屋根材に適した内外装一体のパネルで、断熱材を表裏2枚の鋼板でサンドイッチにした断熱効果の高い商品です。今後は、オフィスビルやショッピングセンターの外壁への採用が見込まれています。



EXPOCITY(エキスポシティ)大阪府吹田市

■ 太陽光発電システム

当社がこれまでに培った屋根に関する設計ノウハウや施工技術などを基に、高強度、かつ軽量の太陽光パネル取付金具を使用しております。専用金具でパネルを安全に設置していただくことが可能です。

荷重条件の厳しい建物には、約7.5kg/m²の超軽量パネル(パネル:6.5kg/m²、取付金具:1.0kg/m²)もご提案可能です。



TOPICS

年間約**5,617**MWhの電力を発電。

年間約**3,117**tのCO₂削減効果。

当社の福井工場・大阪工場等及び国内関係会社の屋根上や地上に、太陽光発電システムの設置しており、2015年度は5,617MWhを発電しました。年間約3,117 tのCO₂削減効果が見込まれます。



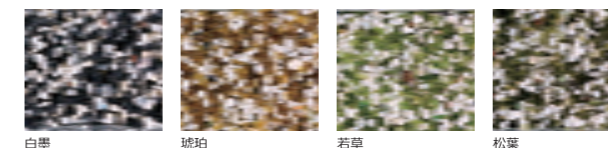
福井事業所

■ ヨドクリスタルグレーチング

回収資源を再利用した環境にやさしく、デザイン性の高いグレーチングです。



色相の例



粉砕した廃ガラスびんと廃陶磁器等との混色により、景観を損なわない落ち着いた色相も表現できる景観及び環境商品です。

ヨドコウグループ概要 (2016年3月31日現在)

■ 会社情報

会社名 株式会社 淀川製鋼所(Yodogawa Steel Works, Ltd.)
設立 1935年1月30日
資本金 232.2億円
売上高 [連結]1,592億円
 [単体]980億円
従業員数 [連結]2,452人
 [単体]1,157人
国内拠点 本社、支社、工場(大阪・呉・市川・泉大津)
 福井事業所、営業所・出張所22ヶ所

■ 主要事業拠点・生産工場

本社

〒541-0054 大阪市中央区南本町4丁目1番1号
 Tel:06-6245-1111

支社

〒104-0041 東京都中央区新富1丁目3番7号(ヨドコウビル)
 Tel:03-3551-1171

生産工場

大阪工場

〒555-0044 大阪府大阪市西淀川区百島2丁目1番21号
 Tel:06-6472-1251
 事業内容:表面処理鋼板・建材・エクステリア商品・ロールの製造

呉工場

〒737-0027 広島県呉市昭和町9番1号
 Tel:0823-25-1111
 事業内容:表面処理鋼板の製造

市川工場

〒272-0011 千葉県市川市高谷新町5番地
 Tel:047-328-1231
 事業内容:表面処理鋼板の製造

泉大津工場

〒595-0052 大阪府泉大津市西港町18番14号
 Tel:0725-32-5681
 事業内容:グレーチングの製造

福井事業所

〒913-0038 福井県坂井市三国町新保テクノポート1丁目2番2号
 Tel:0776-82-2021
 事業内容:建材・エクステリア商品の製造

国内連結子会社(4社)

① 高田鋼材工業株式会社

〒551-0023 大阪府大阪市大正区鶴町5丁目3-50
 Tel:06-6552-7701
 事業内容:鋼板の加工販売、倉庫業

② 淀鋼商事株式会社

〒541-0054 大阪市中央区南本町4丁目1番1号ヨドコウビル5F
 Tel:06-6241-7231
 事業内容:鉄鋼卸業

③ 京葉鐵鋼埠頭株式会社

〒272-0011 千葉県市川市高谷新町5番地
 Tel:047-328-3561
 事業内容:港湾運送業及び倉庫業

④ ヨドコウ興発株式会社

〒541-0059 大阪市中央区博労町4丁目2番15号ヨドコウ第2ビル9F
 Tel:06-6245-8830
 事業内容:ゴルフ場、駐車場、ビル等の警備・管理

海外連結子会社(3社)

⑤ 盛餘股份有限公司(SYSCO社)

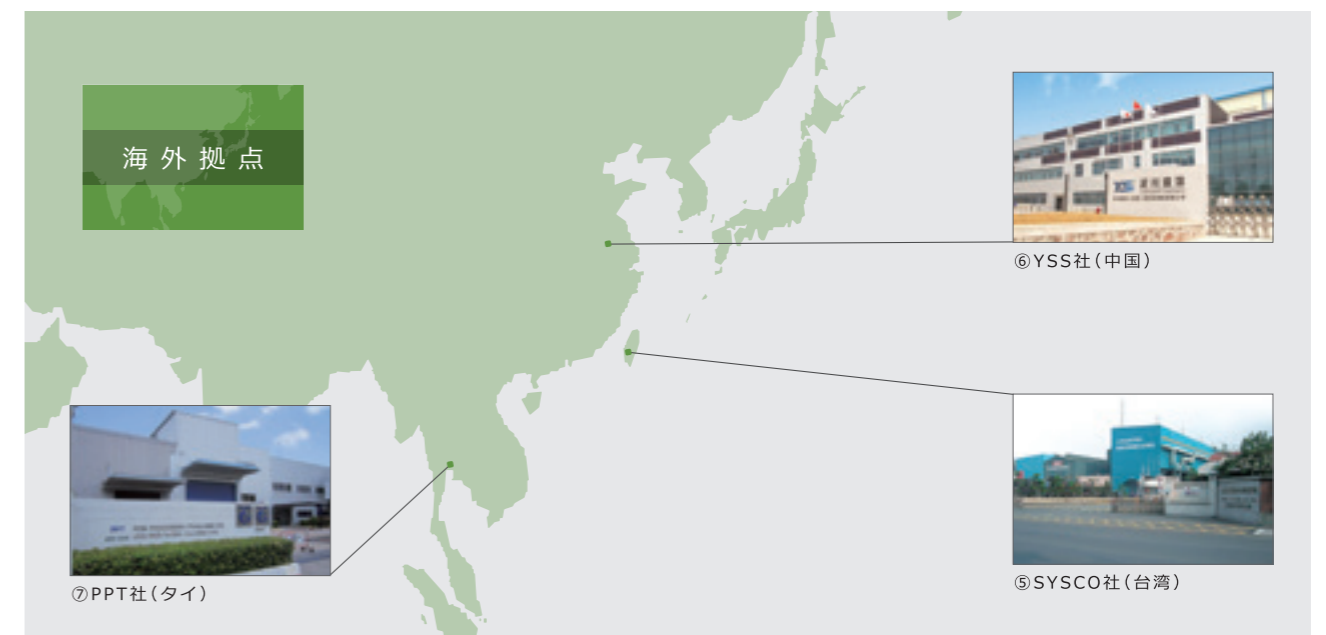
No. 11 Chung Lin Rd., Hsiao Kang, Kaohsiung, 81260 Taiwan, R.O.C.
 Tel:010-886-7-871-5262
 事業内容:鋼板製品の製造、販売

⑥ 淀川盛餘(合肥)高科技鋼板有限公司(YSS社)

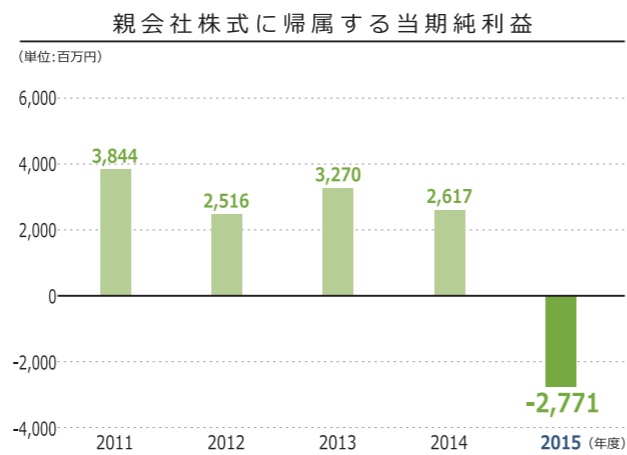
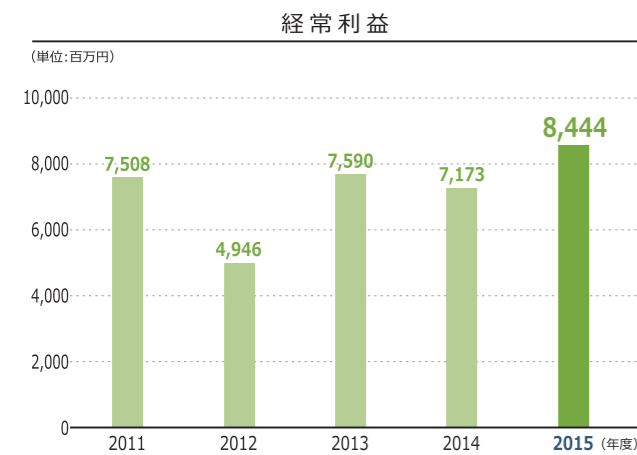
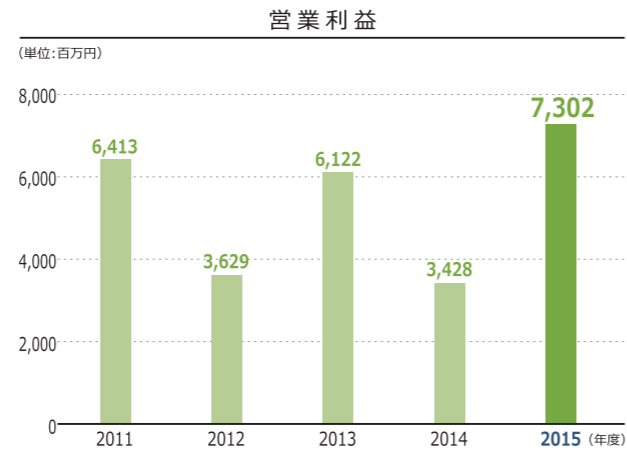
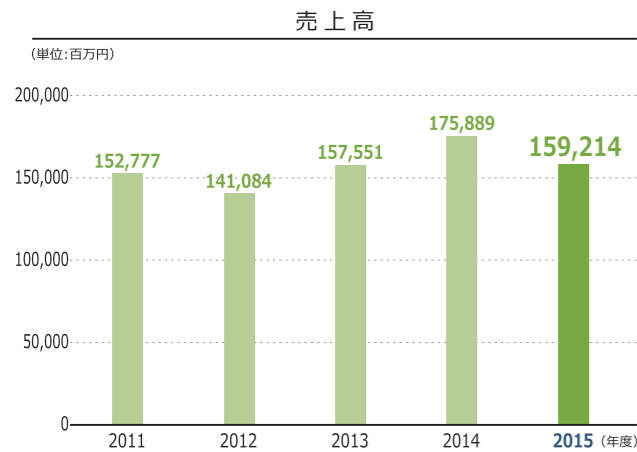
安徽省合肥市经济技术开发区蓬莱路2551号
 Tel:010-86-551-6255-2551
 事業内容:めっき鋼板・カラー鋼板の製造ならびに販売

⑦ PCM PROCESSING (THAILAND) LTD.(PPT社)

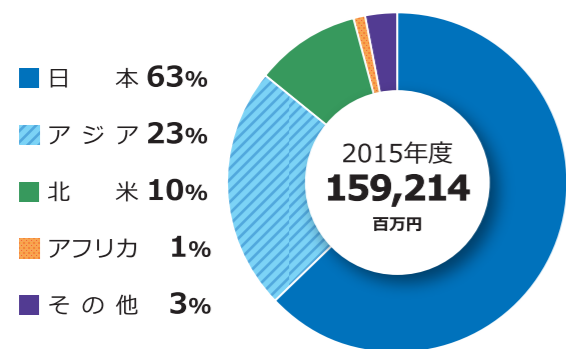
Amatanakorn Industrial Estate, 700/614 moo7, Muang, Chonburi 20000
 Tel:010-66-38-454-381
 事業内容:塗装鋼板製造・販売、鋼板加工



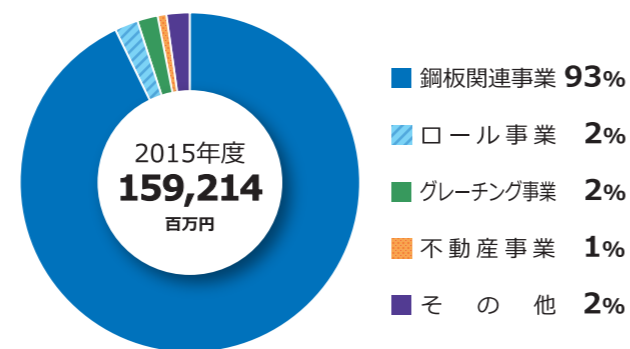
■ 財務情報 (連結)



地域別売上高構成比



セグメント別売上高構成比



■ ウェブサイトによる会社情報提供

▶▶▶ 株式会社淀川製鋼所ウェブサイト



▶▶▶ CSRの取り組み



▶▶▶ IR情報

https://www.yodoko.co.jp/geihinkan/



▶▶▶ ヨドコウ迎賓館

社会貢献活動の一環として、フランク・ロイド・ライト(Frank Lloyd Wright/1867~1959年)設計の国指定重要文化財「ヨドコウ迎賓館」(旧山邑家住宅)の一般公開を行っております。

※2016年11月より保存修理工事を予定しています。今後の開館予定につきましては、ホームページをご覧ください。

